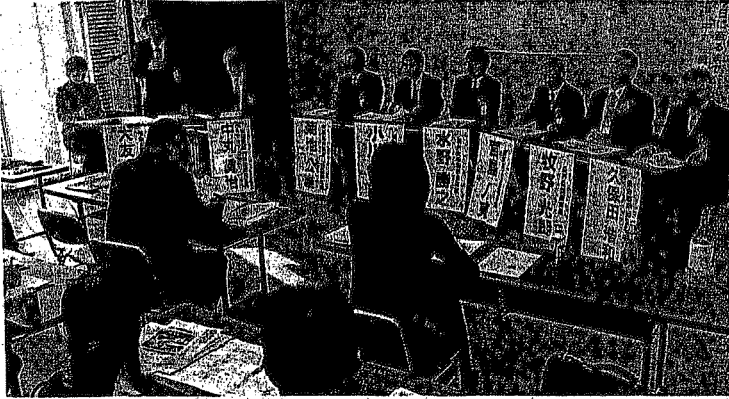


## 地域ブランド楽しく

### 飯田で「南信州」売り込みへ シンポジウム



南信州ブランド確立に向け意見を交わしたシンポジウム＝飯田市

基調講演で、桔梗(ききょう)屋(や)山梨真苗吹(まなぶ)市(し)の中丸真治社長が「桔梗信玄餅(しんげんもち)のブランド化に成功した経験から「包装資材に新しい素材を使った」り、何か「変わっている」

明治大(東京)は二十三日、飯田市で行う地域産業活性化に向けた人材育成プログラムの初回として、「南信州」ブランド確立の課題などを話し合うシンポジウムを同市の飯伊地域地域産業振興センターで開いた。牧野光明市長や経済団体代表、大友純・明大教授らが意見を交わし、参加した約八十人が地域経済の将来におけるブランド確立の重要性を確認した。

と認識してもいいことが重要」と指摘。その上で「横並びにならないうまく差額を凌ぐ努力を」と訴えた。  
パネル討論では牧野市長が「ここ数年、市田柿や自転車などの知名度が上がったが、外から飯田へ来た人の功績が大きいい。そうした人材を誘導する仕組みが必要」と強調。菊池公雄(きくちこうゆう)信濃毎日新聞社論説副主幹は「南信州は人柄や自然が素晴らしい。それを生かすべく、都市機能を強化すれば地域の良さがもっと引き出されるのではないかと述べた。また中丸社長

が「いいだろう南信州」というキャッチフレーズはどうか」と提案、会場がわく場面もあった。プログラムは今後、来年三月まで明大教授による講義を予定。大友教授は「ブランド確立に向け、必死にかつ楽しく考えていきたいと思います」と呼び掛けた。

2007年 11月 24日 信濃毎日新聞

「信濃毎日新聞 2007年 11月 24日掲載許 0802803」